



全国鳥類繁殖分布調査

日本の鳥の今を描こう

2016 - 2018





調査の目的

しばしば起きる大規模な災害、中山間地の過疎化や農林業の変化、そして気候変動。日本の自然は大きく変化しています。スズメの減少が話題になったように、自然の変化に伴い思いもかけない鳥が減ったり増えたりしています。そんな鳥たちの現状を明らかにし、対策を考えるために、2016年から2020年までの5年計画で鳥の国勢調査ともいえる「全国鳥類繁殖分布調査」を行ないます。

調査の体制

この調査は1970年代と90年代に環境省が行なった調査です。

今回はNGOが中心となり、環境省、大学、各地の観察団体とともに、実施していきます。

減少が目立ったゴイサギ／湯浅芳彦

主催団体

バードリサーチ、
日本野鳥の会、
日本自然保護協会、
日本鳥類標識協会、
山階鳥類研究所、
環境省生物多様性
センター

共同実施団体

群馬県立自然史博物
館、国立環境研究所、
長野県環境保全研究所
(自然環境部)、福井県自
然保護センター、酪農学
園大学

助成

サントリー世界愛鳥基金、自然
保護助成基金

解析ワーキング グループ

姉崎智子（群馬県立自然史博
物館）、上野裕介（石川県
立大学）、大澤剛士（首都
大学東京）、片山直樹（農業環境技術研究所）、高川
晋一（日本自然保護協会）、直江将司（森林総合研究所）、
深澤圭太（国立環境研究所）、藤田剛（東京大学）、

三上 修（北海道教育大学）、宮下 直（東京大学）、森
本 元（山階鳥類研究所）、山浦悠一（森林総合研究所）

調査協力団体

日本野鳥の会秋田県支部、日本野鳥の会旭川支部、日
本野鳥の会石川、日本野鳥の会茨城県、日本野鳥の会
西表支部、日本野鳥の会愛媛、日本野鳥の会岡山県支部、
日本野鳥の会香川県支部、日本野鳥の会鹿児島、日本
野鳥の会神奈川支部、日本野鳥の会北九州、日本野鳥
の会岐阜、日本野鳥の会熊本県支部、日本野鳥の会
高知支部、日本野鳥の会郡山支部、日本野鳥の会
埼玉、日本野鳥の会佐賀県支部、日本野鳥の会佐
渡支部、日本野鳥の会札幌支部、日本野鳥の会
滋賀、日本野鳥の会静岡支部、日本野鳥の会
島根県支部、日本野鳥の会滝川支部、日
本野鳥の会筑豊支部、日本野鳥の会千
葉県、日本野鳥の会東
京、日 本
野鳥の会
遠 江、日
本野鳥の会徳島県
支部、

日本野鳥の会栃木、
日本野鳥の会鳥取県支部、日本野鳥の会苫小牧支部、



調査の実施状況

2016-2018年の調査には1,573人の方にご参加いただきました。全国に設
定された2,324コースのうち、70%を超える1,637コースの調査を実施す
ることができました。調査データの数はアンケート調査とあわせ103,654
件、332種（外来鳥18種を含む）の鳥類が記録されました。



詳細な分布調査、越冬期の分布調査も実施

全国調査に加え、東京都と茨城県では詳細な調査を実施し
ました。東京都では、1kmメッシュで調査を実施し、822の
メッシュの情報を収集しました。茨城県では、5kmメッシュ
で調査を実施し、214メッシュの情報を得ました。
また、繁殖期だけでなく越冬期の情報収集もしました。10km
メッシュで情報収集をし、516メッシュから計329種の情報を
得ることができています。

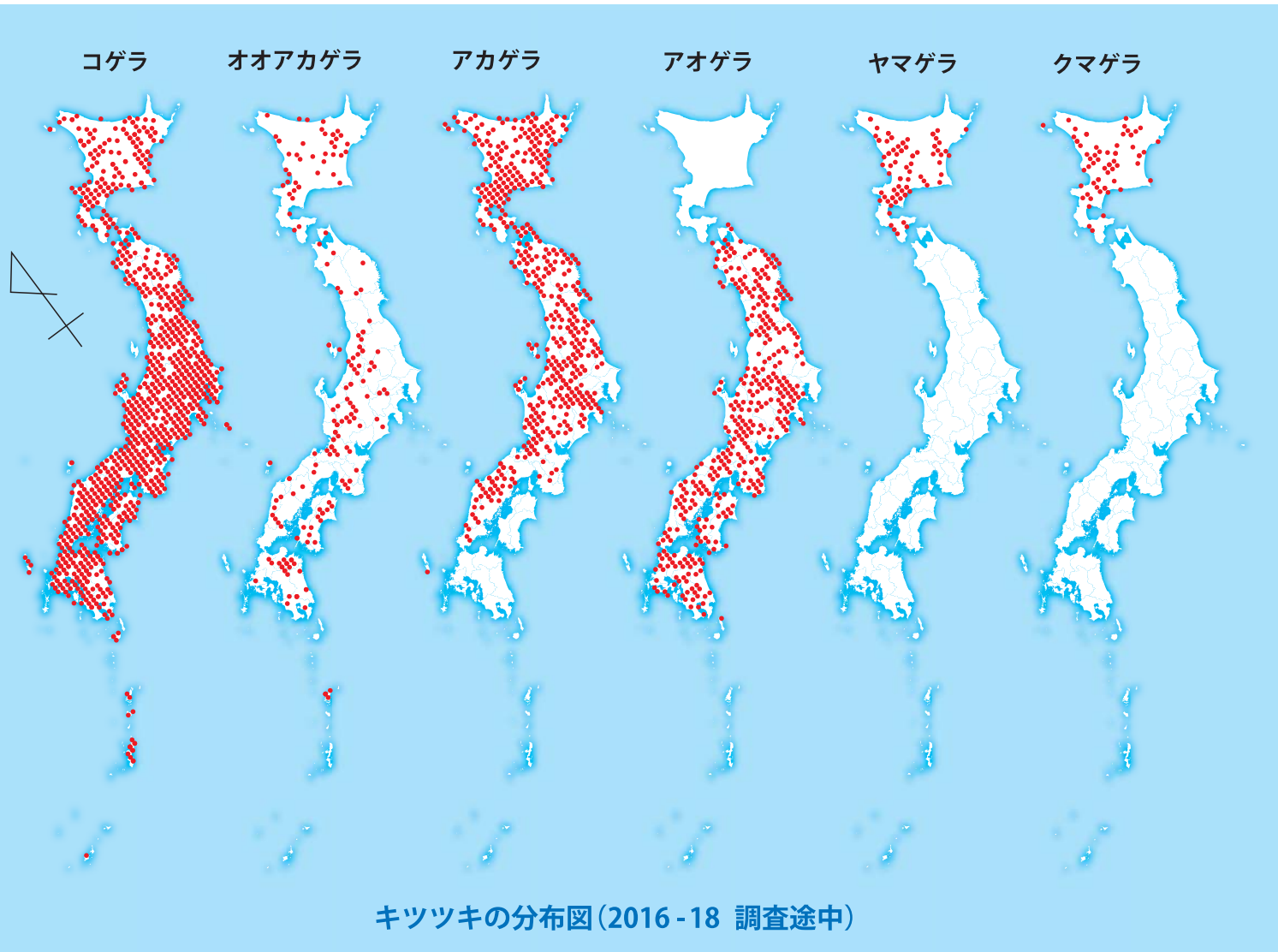


全国の調査コース

黒：調査の終わったコース
青：調査者の決まっているコース
赤とオレンジ：調査責任者の決まっていないコース

分布図の作成

調査をすることができているのは7割の調査地なので、まだまだ分布図に穴はあるのですが、調査が進み、各種鳥類の分布がだいぶわかるようになってきました。キツツキ類の分布図をみると全国にたくさんいるコゲラ、数は少ないながら全国にいるオオアカゲラ、南には生息していないアカゲラなど各種の分布の特性を見ることができます。



減少が心配される標高の高い場所の鳥の1つビンズイ／神尾雄二



減少している鳥、増加している鳥

今回調査を行なうことのできたコースのうち、調査コースの変更が軽微で過去と比較可能なコースについて、1990年代の結果と比べ、増減が顕著な鳥を見てみました。

分布の縮小が顕著な種ではゴイサギやヤマセミなど小型の魚を食べる種が目につきました。また、逆にカワウやミサゴなどの大型の魚を食べる鳥は分布の拡大が目につき、外来鳥、夏鳥や森林の鳥も分布拡大していました。

森林の鳥の分布が拡大しているなかで、ビンズイやウソ（11位）、メボソムシクイ（13位）など標高の高い森林にいる鳥は分布が縮小していました。標高の高い場所はまだ調査が進んでいないので、調査を続け、その動向に注目していきたいと思います。

表1 全国鳥類繁殖分布調査で分布が増減した種の上位10種(50コース以上で記録された種を対象とした)

種名	1997-2002	2016-2018	減少率(%)	種名	1997-2002	2016-2018	増加率(%)
ゴイサギ	101	46	-54	ガビチョウ	7	136	1843
ヤマセミ	49	28	-43	サンショウクイ	57	302	430
オナガ	39	23	-41	カワウ	24	122	408
コヨシキリ	77	46	-40	ソウシチョウ	26	124	377
ビンズイ	83	50	-40	キバシリ	20	47	135
バン	47	29	-38	ミサゴ	30	70	133
コサギ	79	50	-37	サンコウチョウ	120	262	118
コマドリ	77	49	-36	ダイサギ	61	131	115
コシアカツバメ	39	26	-33	クロジ	37	76	105
ハシブトガラ	117	78	-33	アオバト	232	475	105

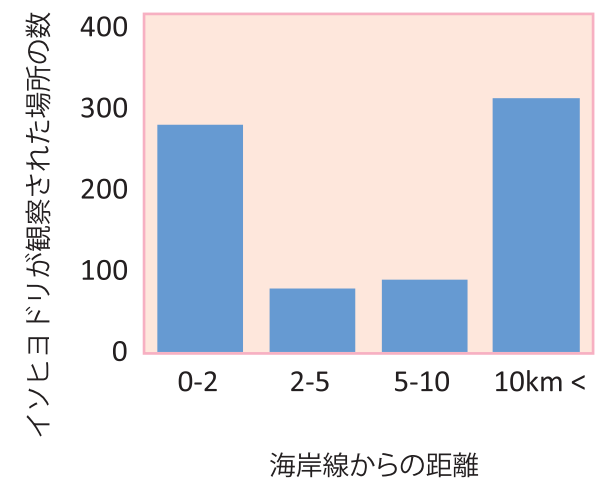
家の屋根でも普通見られるようになったイソヒヨドリ／豊田敏則



イソヒヨドリの内陸侵出

イソヒヨドリはその名前の通り、海岸（磯）に生息する鳥です。そのイソヒヨドリの分布が内陸へと広がっています。今年のゴールデンウィークにイベント的に情報収集を行なったところ、海岸とともに10km以上内陸の記録が多く寄せられました。特に太平洋側の地域で内陸の記録が多いようです。

イソヒヨドリが観察された場所と海岸線からの距離



新たな繁殖鳥 ジョウビタキ、 ミヤマホオジロ、 セグロカッコウ

最近になって新たに日本で繁殖するようになった鳥もいました。ジョウビタキは八ヶ岳から中国山地にかけての別荘や住宅地で繁殖するようになりました。ミヤマホオジロは隠岐や対馬、中国山地から情報が届きました。また、まだ繁殖記録はありませんが、セグロカッコウも記録が増えており、繁殖している可能性が高そうです。



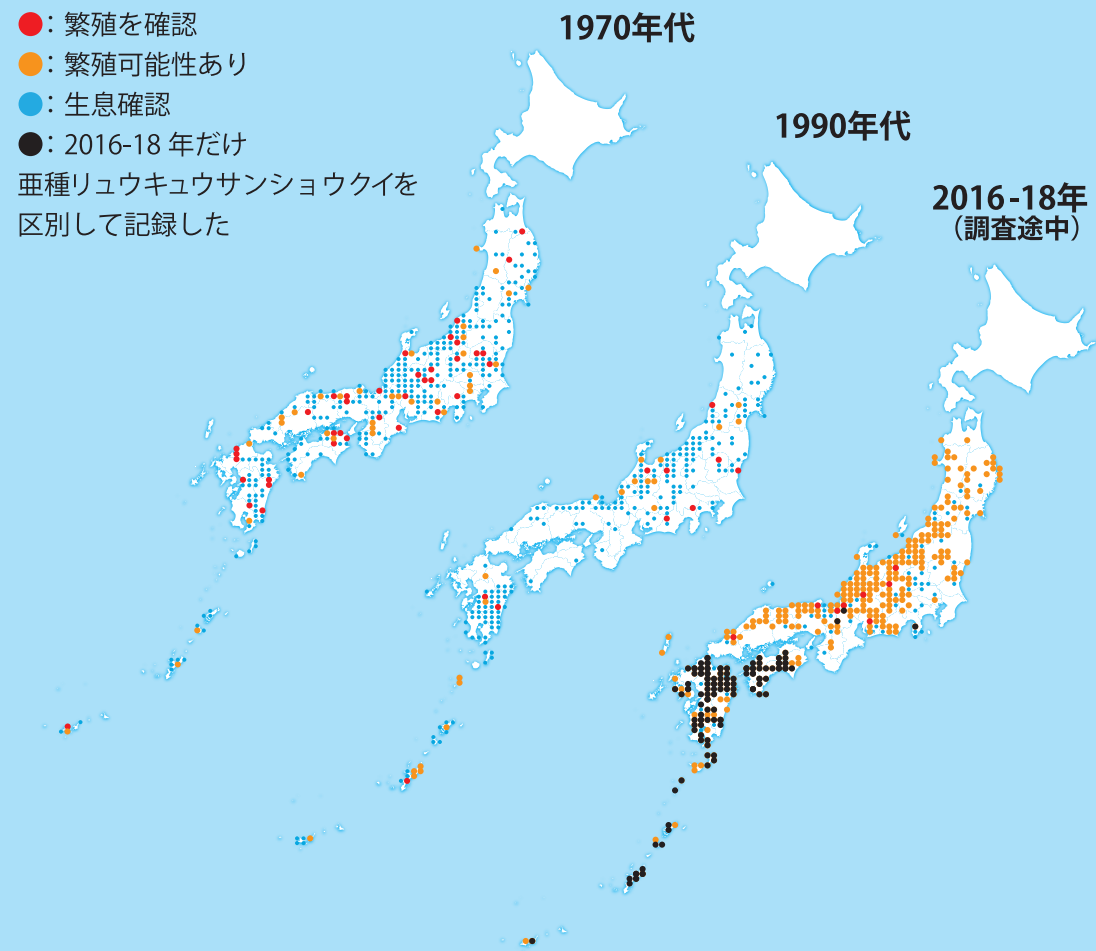
オオルリからモビングされるセグロカッコウ。オオルリに托卵している？／吉村正則

リュウキュウサンショウクイの分布拡大

「夏鳥のサンショウクイは冬はいないから冬にサンショウクイの声がしたらリュウキュウサンショウクイかも」と冬の方が注目が集まるからか、リュウキュウサンショウクイの分布拡大の情報は冬の情報が多かったのですが、繁殖分布調査のデータでもやはり分布が拡大しています。1990年代に太平洋側でサンショウクイが激減し、そこに入り込むようにリュウキュウサンショウクイの分布が拡大していることがわかりました。なお1990年代は亜種の識別をしていませんでしたが、九州南部より南の記録はリュウキュウサンショウクイと思われる。

サンショウクイの分布の1970年代からの変化

- ：繁殖を確認
- ：繁殖可能性あり
- ：生息確認
- ：2016-18年だけ
亜種リュウキュウサンショウクイを
区別して記録した



その他の調査

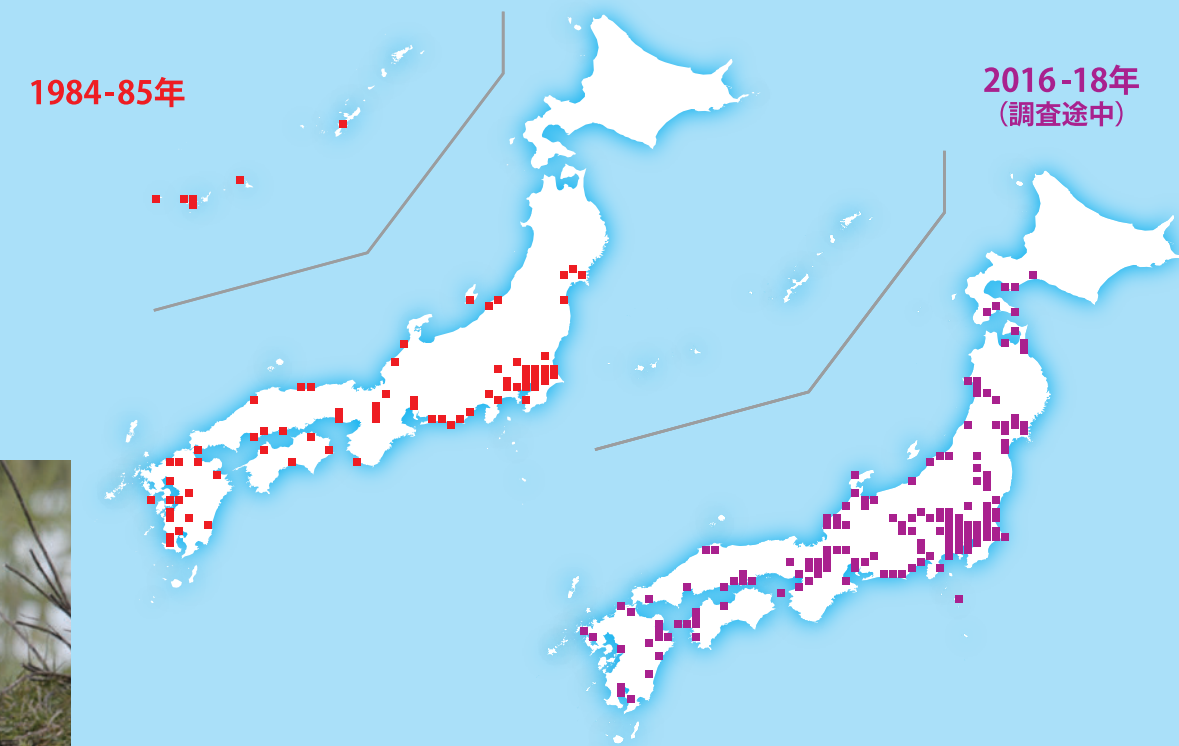
越冬調査 アカハラやオオバンの北上

繁殖期の分布だけでなく越冬期の分布状況についても情報収集をしています。まだ集まっている情報は少ないのですが、それでも分布の北上している種がいることがわかってきました。

アカハラは繁殖期の分布が縮小していることがわかっている種ですが、越冬分布は広がっていて、これまで太平洋側で越冬する鳥だったのが、富山や新潟などの日本海側でも記録されるようになってきました。またオオバンは越冬個体数が増えている鳥として有名ですが、その分布も北上していて、1980年代は宮城県以南で越冬していたのが、今は北海道南部でも記録されるようになってきました。

オオバンの分布の変化

かつては記録されていない北東北や北海道でも越冬するようになった



雪の中越冬するオオバン／大塚祐二



